

第6次宇都宮市総合計画改定基本計画策定方針

1 計画改定のねらい

- 本市においては、平成30年3月に「第6次宇都宮市総合計画」を策定し、基本構想に定めた2050年の「将来のうつのみや像（都市像）」である「輝く人の和 つながるまちの環 魅力と夢の輪 うつのみや」の実現に向け、各施策・事業に取り組んでいるところである。
- このような中、人口減少・人口構造の変化をはじめ、Society5.0やデジタル・トランスフォーメーション（以下「DX」という。）等のICTを取り巻く環境の変化、SDGsの達成に向けた脱炭素社会構築の要請などの社会潮流のほか、新型コロナウイルス感染症の影響や台風等の自然災害の激甚化など、本市を取り巻く環境は大きく変化し、市民が抱える課題やニーズも複雑化・多様化している。
- このようなことから、基本計画の改定に当たっては、これらの社会経済環境の変化やこれまでの政策・施策の達成状況をはじめとする本市の現状を的確に捉えながら、より効果的・効率的な政策・施策を構築することで、基本構想に掲げる「将来のうつのみや像（都市像）」の実現に向けて更なる取組の推進を図る。

2 基本的事項

(1) 計画の位置付け

- 総合計画は、本市の都市経営の最上位の方針であり、市民・事業者・行政などの構成員が一体となってまちづくりに取り組むため、基本的な考え方や目指す将来の姿を示し、その具現化に向けた取組を基本計画に位置付けている。
- 今回策定する改定基本計画については、現計画の策定以後に生じた新たな社会潮流を的確に捉えるとともに、多様化・複雑化する課題に対応するために、分野横断的な施策や各政策分野をけん引する戦略的な事業に重点化した計画とする。

(2) 計画の期間

令和5年（2023）度から令和9年（2027）度までの5年間

(3) 基本計画の構成

目指すまちの姿「スーパースマートシティ」、都市空間形成の基本方針、分野別計画（「6つの未来都市」） など

【総合計画の構成と期間】

- 基本構想 目標年次：2050年
- 基本計画 計画期間：2018年度～2027年度（前期5年、後期5年）
- 実施計画 計画期間：3年間（毎年見直し）

3 改定に向けて捉えるべき重点課題

(1) 人口減少・少子超高齢化の深刻化

2020年の出生数は、全国・本市ともに過去最少となったところであるが、本市における2015年から2020年の5年間における出生数の減少率は23.0%であり、全国の減少率である16.4%を上回るペースで少子化が進行するとともに、同年の本市の高齢化率は25.3%となり、今後も上昇を続け、2025年頃には団塊の世代が後期高齢者になることから、これまで以上に少子化対策や高齢化に対応したまちづくりを強化する必要がある。

(2) 市民の豊かな生活を実現する官民と連携したDXの推進

本市においては、2019年に「Uスマート推進協議会」を立ち上げるなど、最先端の技術を活用したスマートなまちづくりを進めてきたところであり、引き続き、誰もがデジタル技術の恩恵を享受しながら豊かな生活を実現できる全国のモデルとなるスマートシティの実現に向け、官民が連携したDXを進める必要がある。

(3) 脱炭素社会構築に向けた要請

国際社会共通の目標であるSDGsへの貢献や地球温暖化を起因とする自然災害の激甚化に対し、国際社会の一員としての本市の責任を果たしていくため、本年9月、二酸化炭素排出量を2050年までに実質ゼロとする「カーボンニュートラル」の実現を目指すことを宣言したところであり、その達成に資する取組を強力に推進していく必要がある。

(4) 新型コロナウイルス感染症による人々の価値観の変容への対応

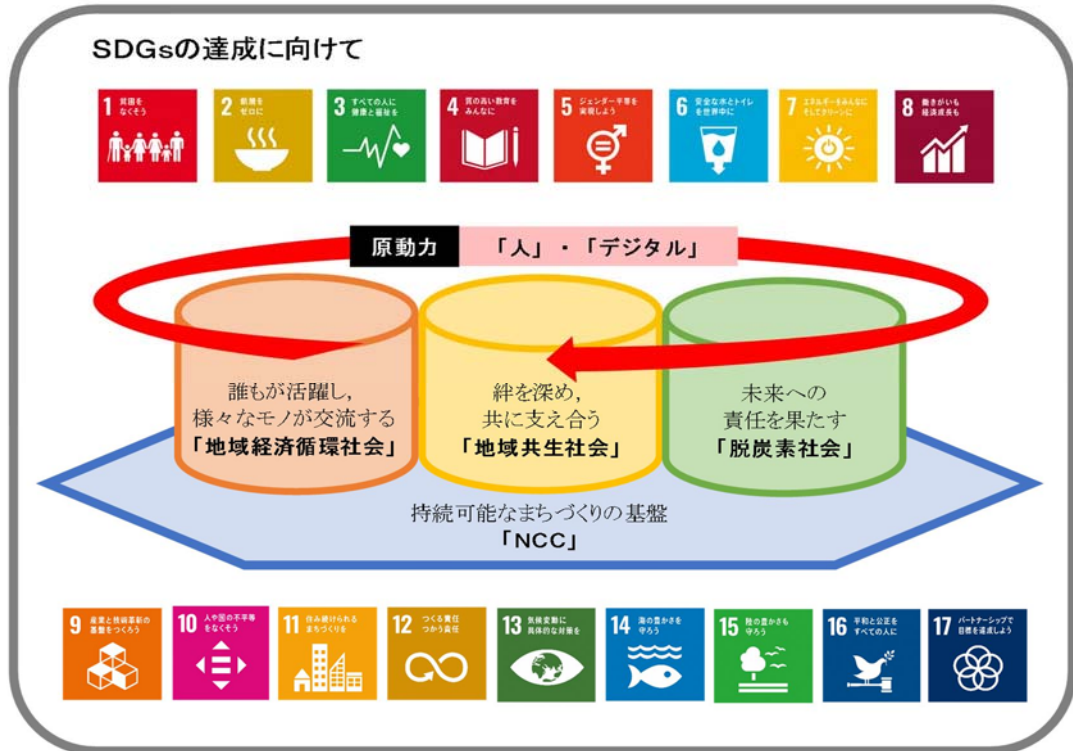
新型コロナウイルス感染症に対応していく中で、テレワークの実施やオンラインを利用したコミュニケーションの推進などの「新しい生活様式」への転換、若者の地方移住への関心の高まりなど、人と人のつながり方や価値観の変化が加速化しており、それらに速やかに対応していく必要がある。

4 課題の解決を図る「スーパースmartシティ」の実現

本市においては、これらの重点課題を解決し、社会環境が急速に変化する中であっても、市内外から選ばれる高い都市力を備え、将来にわたって成長力を確保できるまちづくりに取り組んでいく必要があり、基本構想に掲げる「将来のうつのみや像（都市像）」を実現し、SDGsの達成に貢献していくため、概ね2030年頃を見据えた具体的なまちの姿として、「子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち『スーパースmartシティ』」の実現を目指していくものとする。

【「スーパースマートシティ」の構成イメージ】

持続可能な都市構造である「NCC」を基盤としながら、「地域共生社会」（社会）、「地域経済循環社会」（経済）、「脱炭素社会」（環境）の3つの構成要素が融合し、「人」と「デジタル」を原動力に発展を続けられるまち



(1) 「スーパースマートシティ」を支える持続可能なまちづくりの基盤「NCC」

コンパクトなエリアへの都市機能や居住の誘導・集積と階層性のある公共交通ネットワークの構築を進めるとともに、都市の防災・減災機能の強化に資する基盤整備等の促進により、激甚化する自然災害にも適応できる、誰もが移動しやすく強靱で持続可能な、まちづくりの基盤となる都市構造

(2) 「スーパースマートシティ」を構成する「3つの社会」

ア 絆を深め、共に支え合う「地域共生社会」

NCCの強みを生かし、性別や国籍、障がいの有無などに関わらず、子どもから高齢者まで、誰もが生きがいを持ち、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるとともに、地域に思いやりがあふれ、絆を深めながら、孤独や孤立に寄り添い、支えられる社会

イ 誰もが活躍し、様々なモノが交流する「地域経済循環社会」

女性や高齢者、障がい者、外国人など誰もが自分の力を最大限に発揮することができるとともに、地域の事業者の成長や地域内での消費・需要の拡大を図るほか、次世代産業の集積や起業支援、大谷やプロスポーツ等の地域資源の活用などにより高い付加価値を創出し、モノやヒトの交流をNCCが促進することで、地域内において経済が循環する豊かな社会

ウ 未来への責任を果たす「脱炭素社会」

移動しやすく歩いて暮らせるNCCや本市独自の「もったいない」のころのもと、公共交通の利用などによる、脱炭素型ライフスタイルの推進や再生可能エネルギーの地産地消、森林保全などにより、「カーボンニュートラル」を実現し、100年先も輝き続けられる宇都宮を将来世代に残すことができる社会

(3) 「スーパースマートシティ」の実現に向けた原動力

ア 次世代育成・少子化対策の強化（まちづくりを支える「人」づくり）

人口減少によるまちの活力低下が懸念される中、協働・共創によるまちづくりの担い手となる「人」づくりを進めていくとともに、人口減少・人口構造の変化に対応できる「少子化対策」や将来のうつのみやを担う若年層の活力を強化する。

イ スマートシティの推進（「デジタル」を積極的に活用したまちづくり）

社会環境が急速に変化する中、「デジタル」技術の積極的な活用による市民生活の質の向上を図っていくため、ICTやデータの利活用を社会課題の解決や目標実現に当たっての手段として、あらゆる分野のまちづくりに導入していくことで、市民の便利でより良い暮らしを実現する。

5 計画策定に当たって配慮すべき事項

(1) 社会潮流の変化等を的確に捉えた計画づくり

出生数の大幅な減少等による人口減少、少子・超高齢社会の急速な進行をはじめ、新型コロナウイルス感染症によって顕在化した「孤独・孤立」等の新たな福祉課題、DXの加速化や脱炭素社会の構築など、新たな社会潮流による今後の市民生活への影響を積極的に捉えた計画とする。

(2) 時代の変化に柔軟に対応できる計画づくり

- ・ 複雑化・多様化する行政ニーズや、社会潮流の急激な変化に対応していくことができるよう、分野横断的な取組である「まちづくり好循環プロジェクト」や各分野をけん引する取組である「戦略事業」を重点的に充実・強化した計画とする。
- ・ また、DXやカーボンニュートラルの推進、移住・定住の促進等、広域的な視点からの取組を要する課題に対しては、県や他市町等と連携した市域を越えた施策・事業の強化についても検討していく。

(3) 幅広い市民の意見を反映した計画づくり

学識経験者や市内で活動する団体・事業者等で構成する「総合計画市民懇談会」をはじめ、SNS等を活用し、将来の宇都宮を担う若年層からの意見聴取等を行うとともに、市民アンケート調査やパブリックコメントを実施し、広く市民の意見を聴取し、改定基本計画の策定に反映していく。

(4) SDGs や地方創生の推進等と一体となった計画づくり

SDGs への貢献に向けた施策・事業の体系化を行い、総合計画における各政策との関係を明確化するとともに、地方創生に向けた施策を取りまとめた「第2期宇都宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の見直しを一体的に行い、より実効性のある計画とする。

6 策定の体制・進め方

(1) 庁内組織（総合計画策定本部）

ア 政策評価の実施

- ・ 基本計画に掲げた政策（基本施策）の目標の達成度や施策の進捗状況に基づき、現計画の評価を実施する。
- ・ また、社会潮流の変化や本市の実態を的確に捉え、政策（基本施策）における課題を整理するとともに、今後必要となる政策・施策の方向性を導出する。

イ 分野横断的な政策・施策の検討

複雑化・多様化する課題や市民ニーズに対応した、複数分野にまたがる政策・施策の検討を強化するため、総合計画策定本部における「部会」の再編や「特定課題検討会議」等を設置し、議論の重点化を図る。

(2) 庁外組織

学識経験者や関係機関・団体、事業者などで構成する「総合計画市民懇談会」を設置し、現計画の課題や今後の取組の方向性、改定基本計画の内容等について意見をいただく。

(3) 総合計画調査特別委員会（議会）

現計画を検証するとともに、今後のまちづくりに当たって取り組むべき事項について調査するため、令和3年10月に設置された「調査特別委員会」から意見をいただく。

(4) 市民からの意見聴取

- ・ SNS等を活用した市民等からの意見聴取
- ・ 若年層を中心とする市民等による意見交換
- ・ 市民アンケート調査の実施
- ・ パブリックコメントの実施

7 策定スケジュール

(1) これまでの取組

令和3年 7月 庁内策定本部の設置
政策評価の着手等、庁内検討の開始

(2) 今後の予定

令和3年	1月	総合計画市民懇談会の設置・運営（令和5年3月頃まで）
		特定課題検討会議の設置・運営
	12月	SNS等を活用した市民等からの意見聴取
令和4年	6月	市民アンケート調査の実施
		若年層を中心とする市民等による意見交換
	12月	基本計画（改定計画）素案の作成
		パブリックコメントの実施
5年	3月	基本計画（改定計画）の策定・公表

夢や希望がかなうまち「スーパースマートシティ」

参考 3

子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすために



地域で生活するさまざまな人たちの問題を、地域の住民や団体などが「我が事」として考え支え合うとともに、医療・介護・福祉などの多様な機関を分野を越えて「丸ごと」つなげていく取り組みなどによる

地域共生社会

地域新電力や太陽光発電、冷熱エネルギーなどの本市が持つ資源を効果的に活用する取り組みや、市民一人ひとりの環境に配慮した行動の充実による

脱炭素社会

次世代産業の集積・育成や起業などを支援するとともに、大谷やプロスポーツなどの地域資源を最大限に活用し、市内で人・モノ・情報が交流することで生まれる

地域経済循環社会

「スーパースマートシティ」の実現は世界共通の目標であるSDGsの達成にも寄与します

ネットワーク型コンパクトシティ
NCC
持続可能なまちの土台

「スーパースマートシティ」は、100年先も発展し続けるまちの姿「NCC(ネットワーク型)コンパクトシティ」を土台に、「地域共生社会」「社会」「地域経済循環社会」「経済」「脱炭素社会(環境)の3つの社会が、「人」づくりの取り組みや「デジタル」技術の活用により発展する「夢や希望がかなうまち」です。

宇都宮市は、SDGsの達成にも貢献できる。2030年「うつのみや」のまちの姿として、「スーパースマートシティ」を目指しています。

問 スーパースマートシティ推進室 ☎(632)2786

みんなの夢や希望がかなう輝いたまち「スーパースマートシティ」の姿をミヤリーと一緒に見てみよう！

そうだよね。じゃあ、上のイラストにあるような取り組みがもっとと進められるとどうなるかイメージしやすいように、年齢や性別、世帯構成、住んでいる場所(居住区域)などを、実際に宇都宮市に住む人たちに近づけた「4つの市民モデル」ごとに、その人たちの「ちょっと未来」の生活がどのように変わるのかをマンガにしてみました。

デジタル技術は、そんなまじや人のつながりをより一層強くして、そして、生活を豊かに使っていくんだよ。

「スーパースマートシティ」は、人もモノも、みんながつながる元気なまちなんだね！最初に聞いた時には、もっと難しく、自分たちからは遠い世界の話なのかと思っちゃった。でも、実際に宇都宮市に住んでいる人の生活がどう変わっていくのかも気になるな。

デジタル技術は、そんなまじや人のつながりをより一層強くして、そして、生活を豊かに使っていくんだよ。

「スーパースマートシティ」は、人もモノも、みんながつながる元気なまちなんだね！最初に聞いた時には、もっと難しく、自分たちからは遠い世界の話なのかと思っちゃった。でも、実際に宇都宮市に住んでいる人の生活がどう変わっていくのかも気になるな。

デジタル技術は、そんなまじや人のつながりをより一層強くして、そして、生活を豊かに使っていくんだよ。

「スーパースマートシティ」は、人もモノも、みんながつながる元気なまちなんだね！最初に聞いた時には、もっと難しく、自分たちからは遠い世界の話なのかと思っちゃった。でも、実際に宇都宮市に住んでいる人の生活がどう変わっていくのかも気になるな。

デジタル技術は、そんなまじや人のつながりをより一層強くして、そして、生活を豊かに使っていくんだよ。

「スーパースマートシティ」は、人もモノも、みんながつながる元気なまちなんだね！最初に聞いた時には、もっと難しく、自分たちからは遠い世界の話なのかと思っちゃった。でも、実際に宇都宮市に住んでいる人の生活がどう変わっていくのかも気になるな。

デジタル技術は、そんなまじや人のつながりをより一層強くして、そして、生活を豊かに使っていくんだよ。

「スーパースマートシティ」は、人もモノも、みんながつながる元気なまちなんだね！最初に聞いた時には、もっと難しく、自分たちからは遠い世界の話なのかと思っちゃった。でも、実際に宇都宮市に住んでいる人の生活がどう変わっていくのかも気になるな。

デジタル技術は、そんなまじや人のつながりをより一層強くして、そして、生活を豊かに使っていくんだよ。

「スーパースマートシティ」は、人もモノも、みんながつながる元気なまちなんだね！最初に聞いた時には、もっと難しく、自分たちからは遠い世界の話なのかと思っちゃった。でも、実際に宇都宮市に住んでいる人の生活がどう変わっていくのかも気になるな。

デジタル技術は、そんなまじや人のつながりをより一層強くして、そして、生活を豊かに使っていくんだよ。

「スーパースマートシティ」は、人もモノも、みんながつながる元気なまちなんだね！最初に聞いた時には、もっと難しく、自分たちからは遠い世界の話なのかと思っちゃった。でも、実際に宇都宮市に住んでいる人の生活がどう変わっていくのかも気になるな。

モデル2 齋藤さん

夢や希望

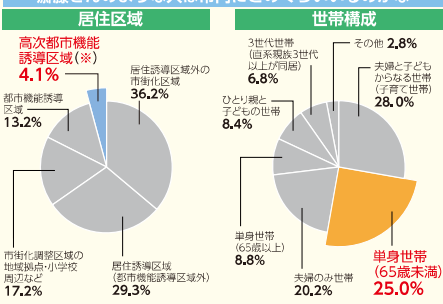
- 結婚や子育て、仕事も全力で頑張りたい!
- 自然あふれる庭付きの一軒家で暮らしてみたいな~
- 郊外部で暮らしていても、街なかで買い物やお酒も楽しみたい!

プロフィール

- 25歳、女性
- 単身
- JR宇都宮駅周辺部に住む

※高次都市機能誘導区域
公共交通を使いながら高度な医療や百貨店、大学など、都市機能が充実した街なかで歩いて暮らせるエリア

齋藤さんのような人は市内にどのくらいいるのかな



齋藤さんは、結婚した後も街なかで仕事をしながら、家族と一緒に広いお庭のあるお家に住みたい! これらの夢がかなうまちでは、どんな暮らしができるのかな~



配車システム GPSや地図ソフトを用いて、配車計画や運行計画を自動作成し、配送業務・輸送業務を効率化するシステムのこと。マンガの中では、完全自動運転(無人)のタクシーに活用されています。

スーパースマートシティなら!

子育てをしながらテレワークできたり、LRTに乗って仕事に行ったり、食事を楽しんだりしているね! 家族の生活を充実させながら、地域経済循環にもつなげているんだね!



モデル1 鈴木さん

夢や希望

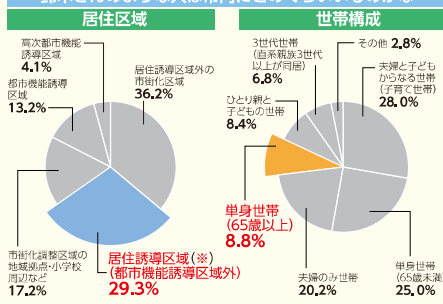
- 地域の活動を通して子どもたちと交流したい!
- 自分が持つ伝統行事の知識や経験を生かしたい!
- 仲の良い知り合いと一緒に健康を維持したい!

プロフィール

- 70歳、男性
- 単身
- 郊外部に住む

※居住誘導区域
公共交通などを使いながら病院や買い物などがゆとりある環境で暮らせるエリア

鈴木さんのような人は市内にどのくらいいるのかな



鈴木さんは、伝統行事の知識や経験を生かしていつまでも元気に活躍したいんだね! もっと活躍できるようになるといいのにな~



VR バーチャル・リアリティの略。マンガの中で鈴木さんが装着しているようなゴーグル型の装置を用いると、視界360°が覆われ、限りなく現実に近い世界に没入する感覚が得られます。

スーパースマートシティなら!

デジタルを活用して、健康を維持し、地域のにぎわいづくりにも貢献しているね! こうしたことが地域共生社会につながっていくんだね!



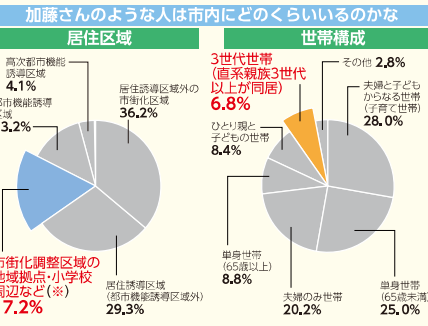
モデル4 加藤さん



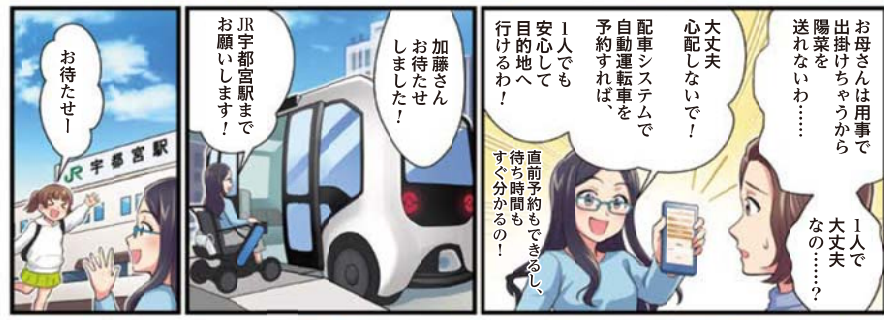
プロフィール
● 16歳、女性
● 祖父母、両親、兄
● 郊外部に住む

夢や希望
● 両親に負担を掛けずに通学したいな！
● 友達とも自由に出掛けたい！
● おじいちゃんもおばあちゃんも元気でいてほしい！

※市街化調整区域の地域拠点・小学校周辺など
農地や里山などの身近な自然に親しめるゆとりある居住環境エリア



加藤さんは、将来、自分がやりたいことを自分の力でもっとできるようになりたいんだね！
どんなまちなら家族みんなが自分らしく生活できるようになるかな～



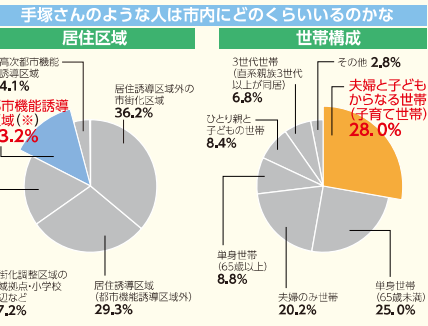
モデル3 手塚さん



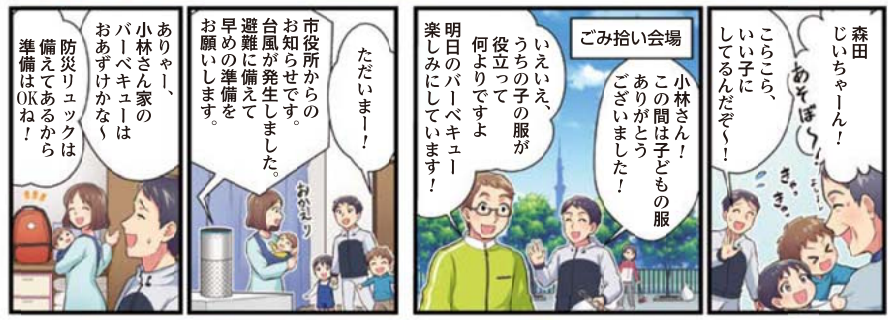
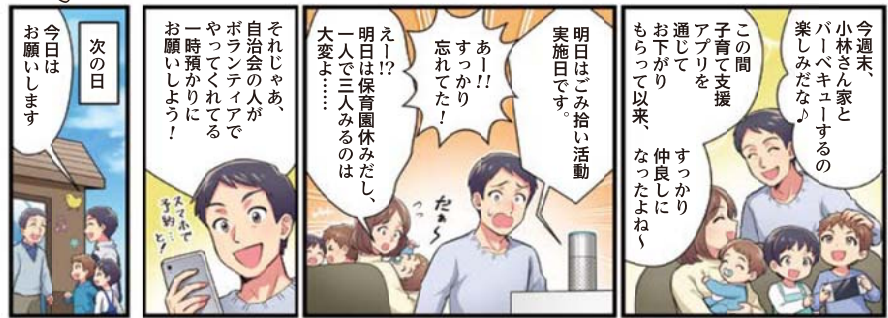
プロフィール
● 40歳、男性
● 妻と子どもも2人
● 市街地部に住む

夢や希望
● 子育ての負担を減らしつつ、もう1人子どもがほしい！
● 地域の一員として積極的に参加したい！
● 災害時でも、地域で支え合えるといいな

※都市機能誘導区域
公共交通を使いながら病院や買い物など生活に必要な機能が充実した、便利に暮らせるエリア



手塚さんは、子育てしながらも地域に参加したいという希望があるみたい！
もっと人同士がつながりやすくなって、今よりもっと安心して暮らせる街になるといいよね～



夏いちご、夏く秋に旬を迎えるいちごのこと。実際に大谷では、5～10℃の低温に保たれている採掘跡の地下水を利用し、夏の暑い時期でも効率よく温度を調節することで、夏いちごの栽培を行っています。

アプリ、アプリケーションの略。マンガの中では、子どもの服を譲ってもらったり、避難準備状況が確認できたりと住民のコミュニケーションツールとして、スマートフォンアプリが活用されています。



「スーパースマートシティ」の実現に向けて

「オール宇都宮」で目指す 「スーパースマートシティ」

宇都宮市長 佐藤 栄一

人口減少・人口構造の変化をはじめ、デジタル技術の著しい進展、気候変動に伴う風水害の激甚化など、私たちを取り巻く環境は急速に変化し、社会が抱える課題も複雑化・多様化しています。

そのような中であっても、「スーパースマートシティ」は今を生きる市民と未来を生きる次の世代が幸せに暮らせるまちが実現し、世界共通の目標であるSDGsの達成にも寄与していくための「切り札」となるものであると考えています。

この特集では、市民の皆様には「スーパースマートシティ」についてより身近に感じていただきたため、市民をモデル化した4人のキャラクターに焦点を当て、本市が目指す「スーパースマートシティ」で生活がどのように良くなっていくのか、その様子を分かりやすくお示しました。

このような生活を実現するためには、少子化や温暖化への対応などの「待ったなし」の課題に対し、宇都宮で暮らす市民や団体、事業者、行政などが手を取り合い、「オール宇都宮」で立ち向かっていかなければなりません。

今後も、私が先頭に立ち、失敗を恐れることなく、「スーパースマートシティ」の実現に向けた挑戦を続けていきます。

皆さんも、自分ができるところにチャレンジしていただき、「誰もが夢を持ち、かなえられるまち」に向けて、共に歩んでいきましょう。

読者の声をお聞かせください

広報うつのみや^{（※1）}は、年に数回編集します。55ページのはがきで、テーマに対するご意見をお寄せください。

広報うつのみや+
夢や希望がかなうまち
「スーパースマートシティ」
についての問い合わせ先

総合政策部
スーパースマートシティ推進室
☎(632)2786、FAX(632)5422
✉u-smart@city.utsunomiya.tochigi.jp

01208096



宇都宮市出身。財務省、平成29年からつくば市副市長を経て、現在は市内を拠点に地方自治体のアドバイザーとして政策立案や経営支援で活躍中。

テクノロジーを生かして 「共創」に取り組む

毛塚 みさと
幹人 さん

共に創る「共創」のまちづくり

私は東京やつくば市での生活を経て、宇都宮市の強みは人や産業、コミュニティの厚さや密接さにあると感じています。複雑で多様な社会課題に行政だけで対応することはできません。宇都宮の強みを生かし、「まちにどんな課題があり、どんな姿を目指すのか」といったことをさまざまな関係者と共に創り上げる「共創」のスタイルが、宇都宮のまちづくりでますます重要になってくると考えています。

多様な主体との連携で取り組む 「スマートシティ」

現在、宇都宮市が進めている「スマートシティ」は、デジタルテクノロジーをまちづくりに活用するもので、私もつくば市で積極的に取り組んでできました。全国で多くの実証実験が展開されて「スマートシティ」間での競争も激しくなる中、市民や地元企業、スタートアップ企業^{（※2）}など多様な主体と連携しながら取り組んでいくことが、宇都宮の「スマートシティ」の独自性を高めると感じています。

テクノロジーの活用は、画一的になりがちな行政の取り組みについても、言語や障害などの多様性に配慮した柔軟なものに変え、市民が持つ本来の力を引き出すことにもつながります。テクノロジーありきではなく、丁寧に市民とコミュニケーションを取り、市民のニーズを起点とする宇都宮の地域独自の「スマートシティ」を描いていけると良いのではないのでしょうか。

若者が希望を感じる宇都宮

宇都宮の規模感の地方都市では、1人のアクションや変化がまちにインパクトを与え、個人が社会を変えていく可能性を確実に持っています。未来を担う子どもや若者が社会とつながり、「スマートシティ」などの地域のさまざまな取り組みに参加することで、社会を少しずつ変えて行く経験を重ねることが、宇都宮への希望や誇りを感じることに繋がっていきと考えています。

私も宇都宮の若者の一人として、国やつくば市での経験を生かしながら地域に貢献していきたいと思っています。

4～9ページでは、「スーパースマートシティ」が目指す姿やその中で人々の生活がどう変わるかを見てきたよ！このページではこうした姿の実現に向けて、具体的にみんながどのように考えたり、どのように行動したりするのいいが、市内外で活躍している幅広い世代の人たちにヒントとなるようなお話してもらったよ！そして最後は、市長に宇都宮市が目指すまちづくりについて聞いてみたよ！みんなもそれぞれのお話を通して、未来の宇都宮について一緒に考えてみよう！

宇都宮市出身。宇都宮大学卒業後、市内でまちづくりに尽力し、現在はNPO法人とちぎユースサポーターネットワーク代表として活躍中。

転んでも立ち上がれる 「挑戦」できる環境に

岩井 としむね
俊宗 さん

「助け合い」と「経済」の両立

私はこれまで、NPOに所属して活動してきましたが、ボランティア活動を続けたくても、体力面や金銭面でつまづいて活動が終わってしまうという現場をいくつも見てきました。活動をしたいという「気持ち」に頼るだけでは継続できない時代になっていると思います。

そのため、地域で経済が回るような仕組みをつくり、「助け合い」と「経済」が両立するエリアをつくりたいと考えています。地域の活動をプロフェッショナル化する「仕事」にすることができれば、若者が地域に参画するきっかけにも、経済活性化にもなっていくのではないかと考えています。

子どもが自ら チャレンジしていける社会を

PTAとして学校教育に参加する中でも感じていることですが、地域の活性化のためには、「子どもの力」を発揮していくことも非常に重要だと思っています。ただ、今の子どもたちは、塾や習い事などが豊富になり、予定が入っていない時間を自分でデザインし、やりたいことを決める経験が少なくなっているように感じます。

そのため、子どもや若者が自らチャレンジしていけるような社会の仕組みを整備していくこと、そして、後世により良い地球を残せるよう、環境問題に正面から向き合っていくことが、私たち大人の使命だと考えています。

「やってみる」が日常にある 「社会実験都市」うつのみや

宇都宮市は、企業や団体が新しいサービスやコンテンツを作るに当たって、「まず宇都宮市でやってみよう」と思える、失敗をプラスに切り替えられる力のある「社会実験都市」であってほしいと思っています。

そのためには、新しいことを受け入れる私たち市民側も、挑戦する人の背中を押すだけではなく、その人が転んでしまっても支えてあげられるような、まず「やってみる」が日常にある、まち全体がそんな空気になれると素晴らしいと思います。

日光(旧今市)市出身。民生委員として23年活動し、現在は宇都宮市民生委員児童委員協議会長として活躍中。

人との関わりを育み 共に支え合う 「地域共生社会」を

榎山 和子 さん

家族との関わりの中で 育んできた「共生」の意識

私は民生委員として20年以上活動をしてきました。独り暮らしの高齢者宅を訪問したり、困り事の相談に乗ったりするなど、さまざまな活動を続けてこられたのも、私自身、人に対する興味関心が強いからだと考えます。

私は10人兄弟の末っ子なので、家庭の中で自然と「共生」の意識が身に付いたのだと思います。

物事に対する好奇心 チャレンジ精神の大切さ

私はスマホの操作が苦手ですが、好きな洋裁のこととなれば、裁縫の仕方などを調べるためにインターネットを使います。つまり、興味関心があれば、自然と「やってみよう」と行動につながるのだと思います。

また、コロナ禍で大変な思いをされた方はたくさんいらっしゃると思いますが、それをすべて「負」と捉えるのではなく、新たなチャレンジや体験につながる機会だと捉えることもできるのではないのでしょうか。

先日、地域活動の中で「オンライン会議」をしました。操作に手間取ってしまうなど、失敗も多々ありましたが、非常に面白い体験だったと思います。

まちづくりや民生委員をはじめとした地域活動に関しても、まずはその取り組みを「面白い、楽しい」と思ってもらうことが重要です。私自身も、好奇心や興味関心があったから、さまざまな人や活動に巡り会えたのだと思います。

遠くより近くを見る 「向こう三軒両隣^{（※1）}」の精神

最近は独り暮らしの高齢者世帯や核家族世帯が増えており、近所のつながりも希薄になりつつあるのではないのでしょうか。「向こう三軒両隣」という言葉がありますが、少し気に掛けてあげるだけでも「共生」は始まると思います。多くの市民の皆さんが、遠くを見るより近くを見るような気持ちで人との関わりを見守ることで、共に支え合う「地域共生社会」が実現すると思います。